

特別支援教育あどばいすタイム

困った行動への理解と対応

～ストラテジーシートを使った戦略会議～



「なる★ワン」
(Naru★One)

鳴門教育大学 特別支援教育コース
講師 坂口 純子

クラスにこんな子ども，いませんか？

おしゃべりの達人



「うるさくて、
授業が進まんわ」

暴れん坊将軍



「物に当たったり，怒鳴ったり。
早くやめさせたいのに…」

立ち歩き名人



「さっきも注意したのに」

なまけもの星人



「やればできるのに。
どうすれば，やる気が出るの？」

何度言っても
できないっ子



「ちゃんと説明したのに。
どうしてできんの？」

困った行動の判断基準

- 学習や社会活動への参加を妨げる場合
- 周囲や本人の行動を制限してしまう場合
- 周囲を困らせたり、自分自身を傷つけてしまう場合



「困った行動」にもいろいろなレベルがあります。
「困った行動」かどうかという判断は**個別的**になされる必要があります。

チームで判断し、共有することが大切です。

指導前、指導中と**記録**をとって、判断しましょう。

【演習1】 困った行動がなぜ起きるのか、理由を考えよう

困った行動

その理由

なぜ、理由（機能）を考えることが大切なのか？

- 「困った行動」そのものだけに目を向けると…

例) 「〇〇しちゃダメ」

「□□さんは、発達障がいやから仕方ないなあ」

「親があかんから、子どももそうなるんや」

→ 子どもや保護者、障がいに原因を求め、
建設的、具体的な介入を行わない。



個人
攻撃の
畏

行動 = 「機能している」「役に立っている」
困った行動の「機能」を理解することが
論理的な指導方法を考える第一歩！

2. 困った行動がなぜ起こるのか、理由（機能）を考えよう

「困った行動」が起こるのは、主に4つの「理由（機能）」があります。

要求 : 何か（物や活動）が欲しい
逃避 : 嫌だ、逃げたい
注目 : 注目して
感覚 : 刺激そのものが快感
(自己刺激)



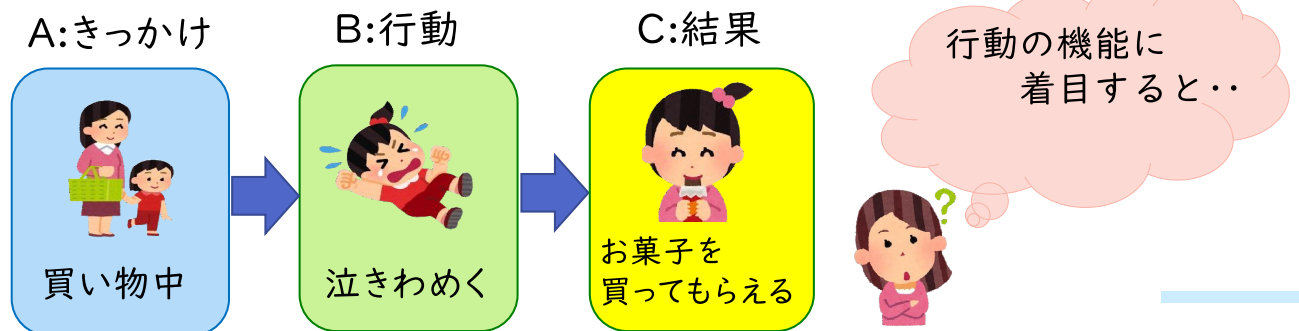
困った行動の理由（機能）は、 どうすれば分かるの？

機能的アセスメント

困った行動の理由（機能）を知るために

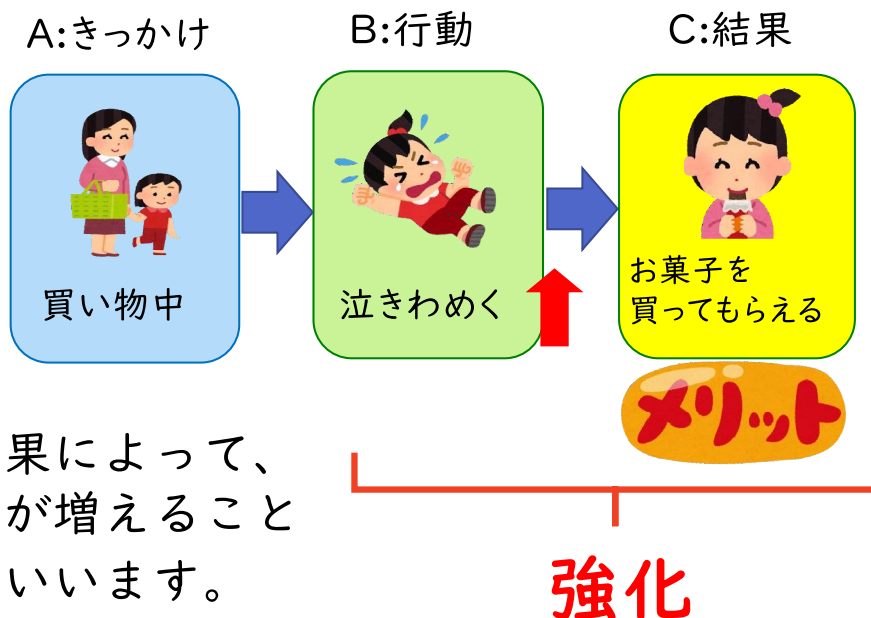
- A: きっかけ（行動の「前」）
- B: 行動
- C: 結果（行動の「後」）

3つの枠組みに分けて情報を集め、整理すること



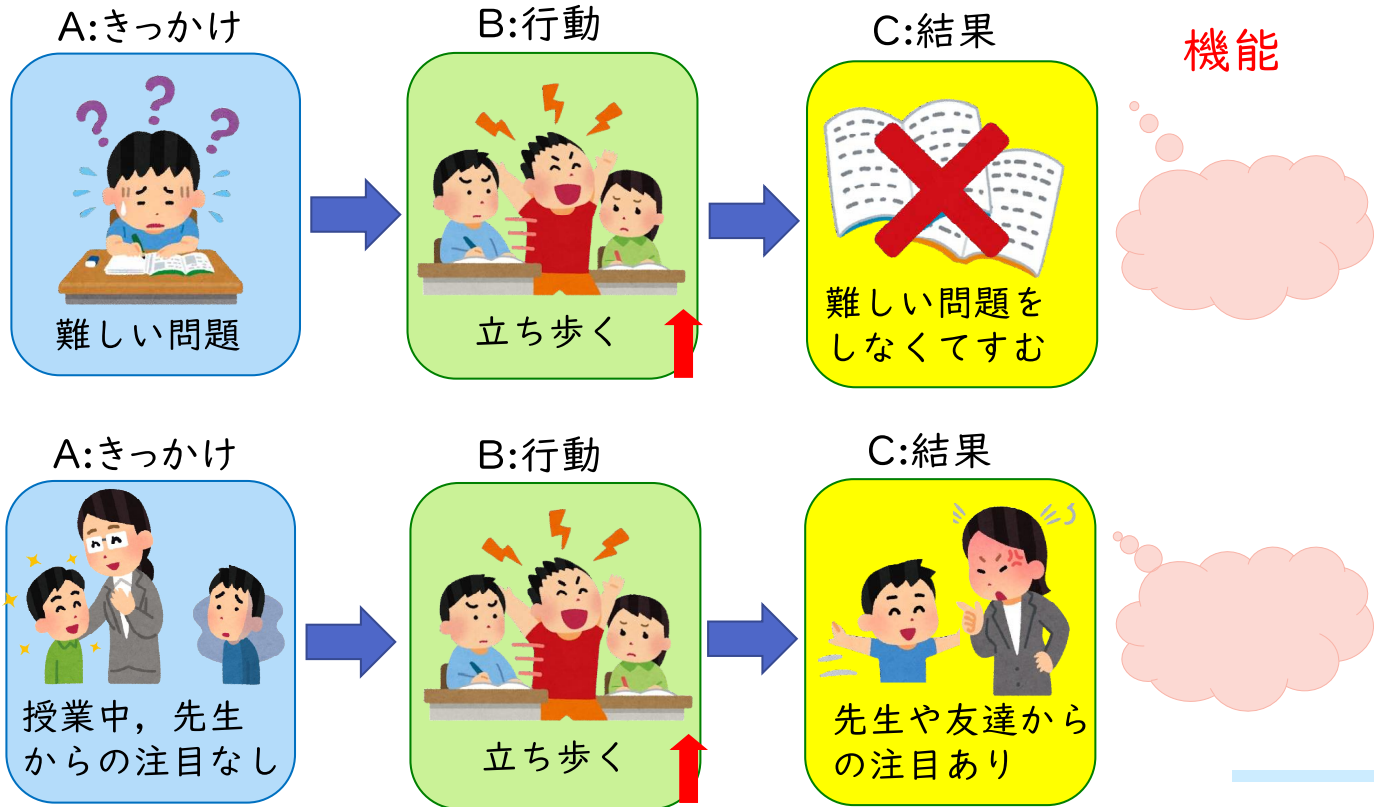
行動は、どうやって増えたり、 維持したりするの？

行動の後（結果）、その子どもにとって**メリット**（何かを得る、何かから逃れる）があると**行動は増えたり、維持したり**します。

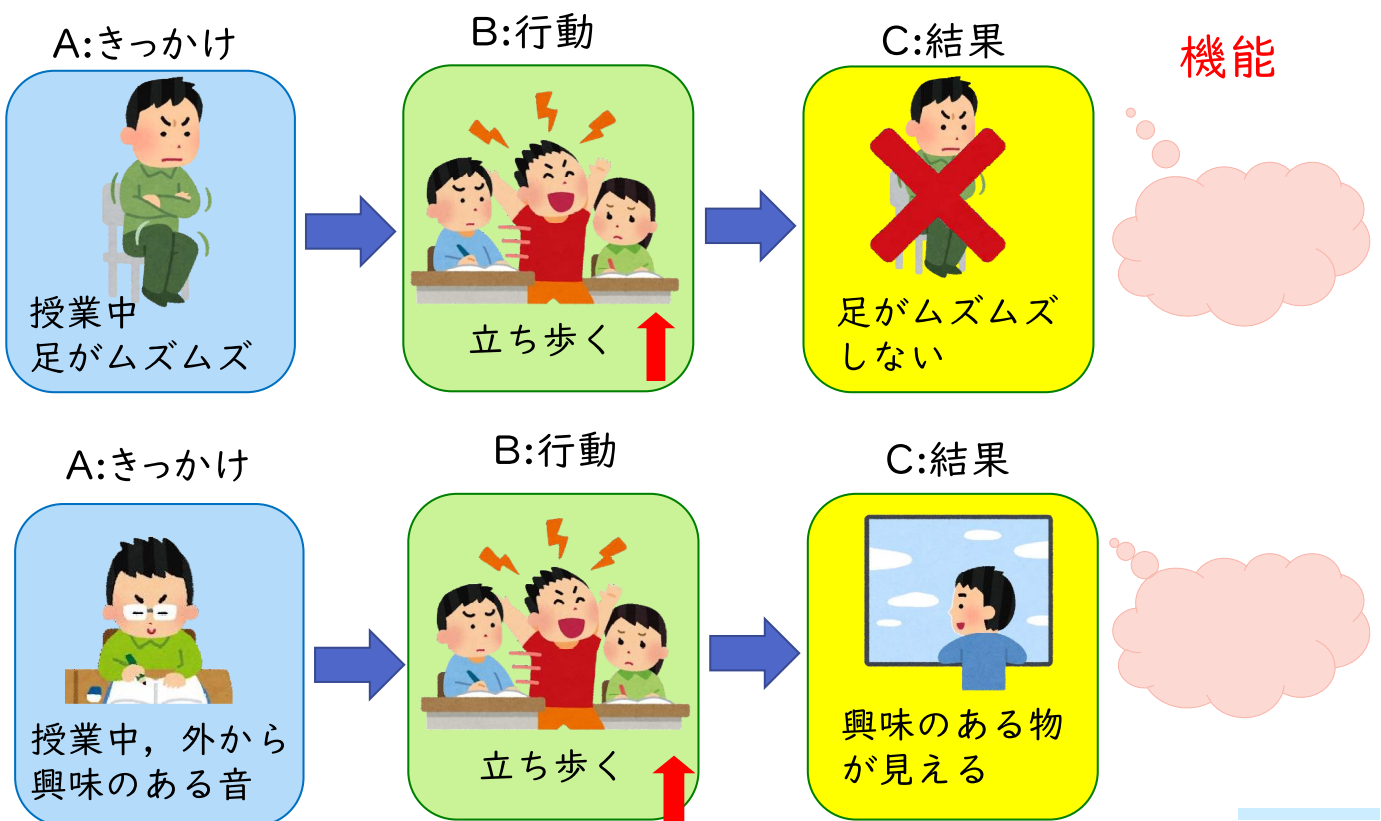


行動の結果によって、その行動が増えることを**強化**といいます。

機能的アセスメントで整理してみましよう ～事例：授業中の立ち歩き～



機能的アセスメントで整理してみましよう ～事例：授業中の立ち歩き～



行動を理解するための機能的アセスメント



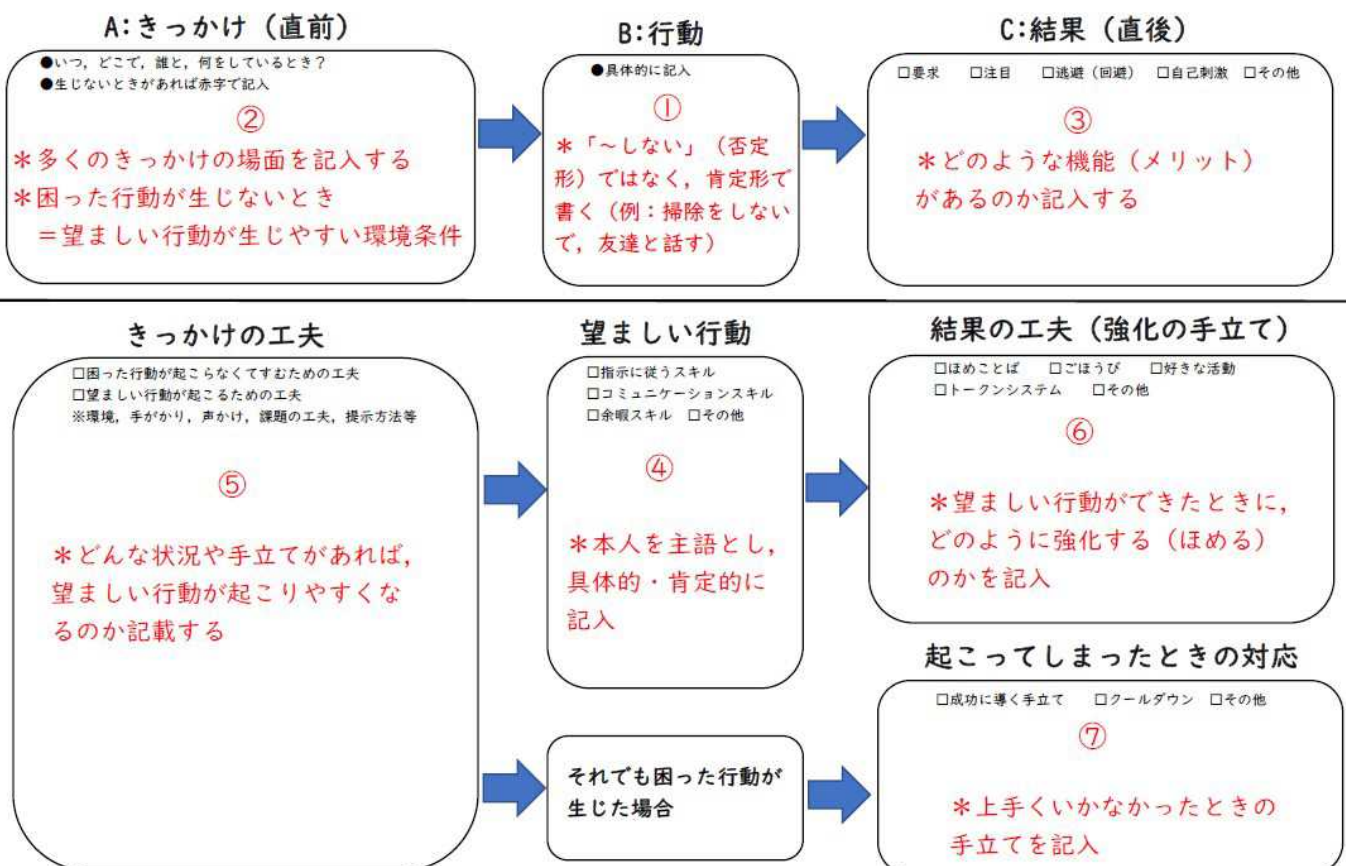
・ 問題解決をするためには・・

- 1) 困った行動が起こりやすい状況を整理する。
- 2) 「なぜ望ましい行動が起きないのか」理由（機能）を考える。
- 3) 望ましい行動を定義し、「きっかけ→行動→結果（ABC）」のそれぞれの理由に応じた方略を考える。
- 4) 起こってしまったときの対応を考える。

➡ **ストラテジーシート** を使用し、子どもの行動を変えるための「**戦略**」を計画しましょう。 11

ストラテジーシート

困った行動



事例：授業中の立ち歩き



- ・ 特別支援学級在籍の小学校2年生。
（ADHD，自閉スペクトラム症）
- ・ 授業中，15分ぐらいすると椅子から立って，教室をウロウロして友達に話しかけます。教員に注意されても，そのまま立ち歩いていることが多いです。
- ・ 手指の不器用さがあり，書くことが苦手で，国語の漢字練習になると歩き出すことが多いです。
- ・ 好きなことは，先生や友達とゲームの話をする事。
- ・ 嫌いなことは，大きな音や声です。

Q：立ち歩かずに漢字練習ができるようになるには，どのように指導したらいいのでしょうか？

1) 困った行動が起こりやすい状況を整理する

A:きっかけ

- ・ 時間帯 ・ 場所
 - ・ 一緒にいる人
 - ・ 人数（集団の規模）
 - ・ 活動の内容
 - ・ 関わり方、声かけ
 - ・ 周囲からの注目度
 - ・ 特定の物が手に入る状態（入らない状態）
 - ・ 特定の活動がやりたくてもできない状況（できる状況）
 - ・ **困ったことが起こりにくい状況**
-
- ・ 医学的問題（体調、服薬等）
 - ・ 生活リズム（睡眠、空腹感）

B:行動

- ・ 具体的な行動の定義
- ・ 頻度
- ・ 持続時間
- ・ 周囲への影響

その他

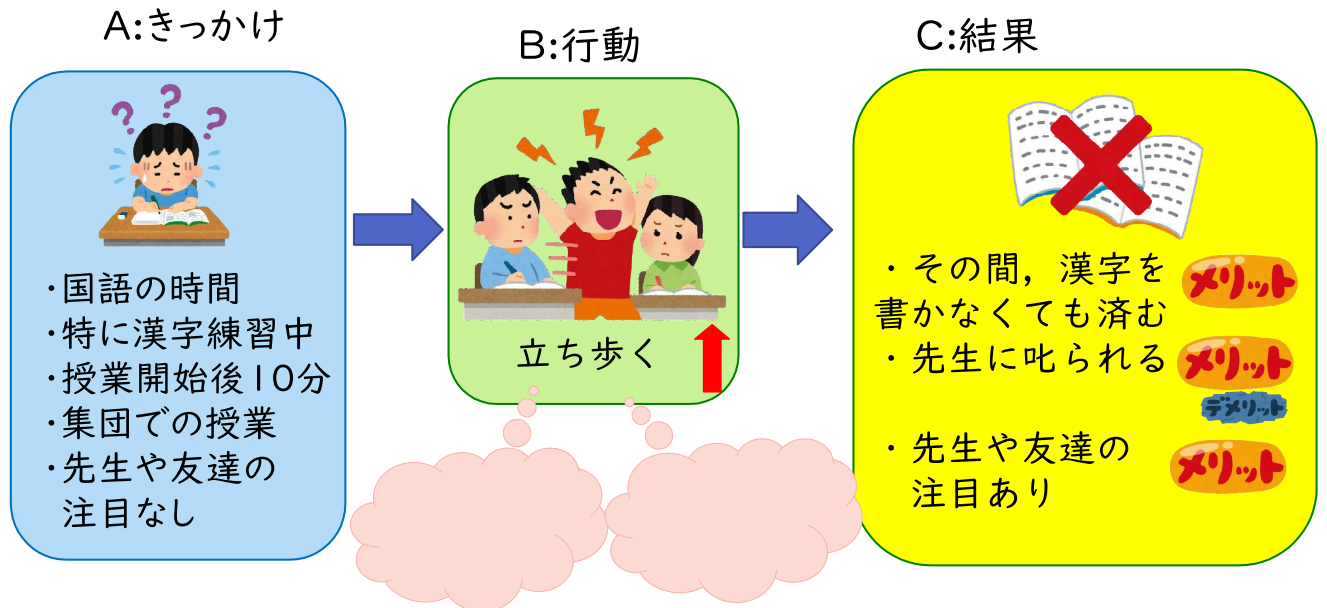
- ・ コミュニケーションスキルの実態
- ・ 好みの物や活動
- ・ これまでの成功例、失敗例

C:結果

- ・ **注目**
- ・ **要求**
物や活動を得たり、できたりする
- ・ **逃避**
物や活動から逃げる
- ・ **感覚**
特定の感覚的刺激を得る

事例：授業中の立ち歩き

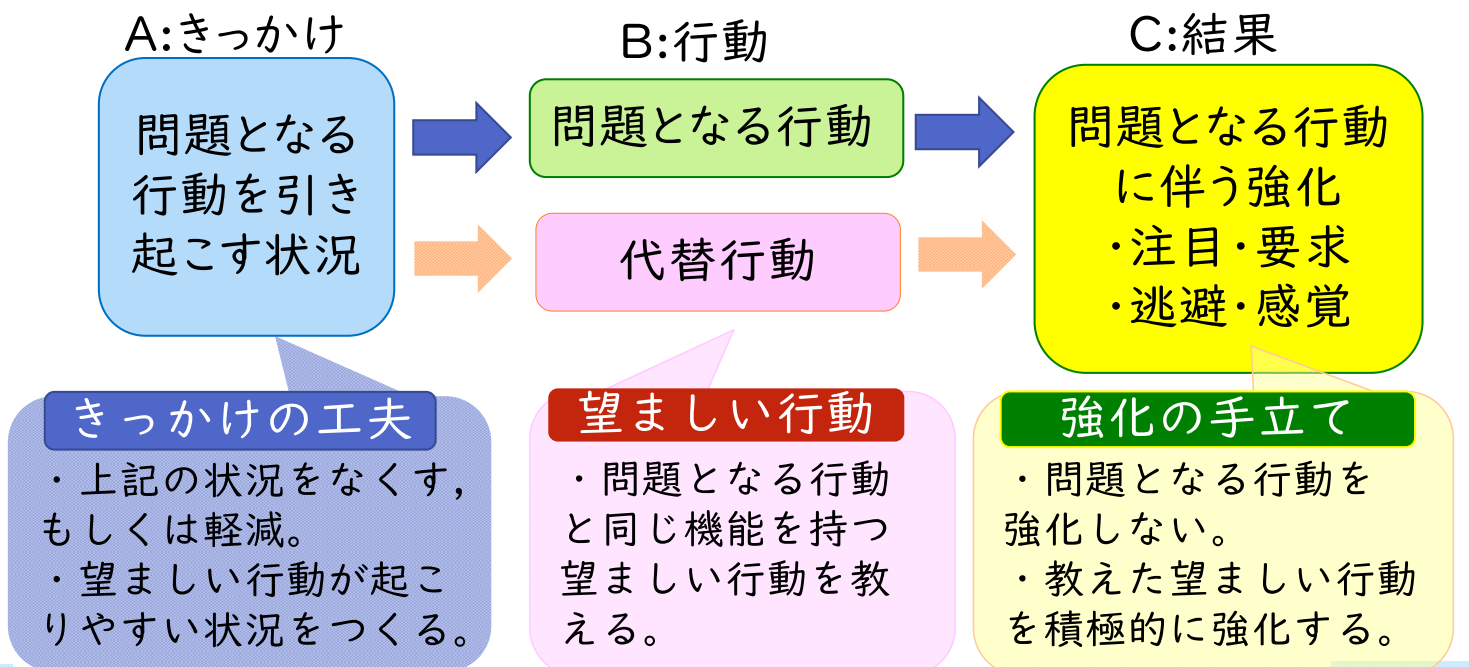
1) 困った行動が起こりやすい状況を整理する。



2) 「なぜ望ましい行動が起きないのか」理由(機能)を考える。

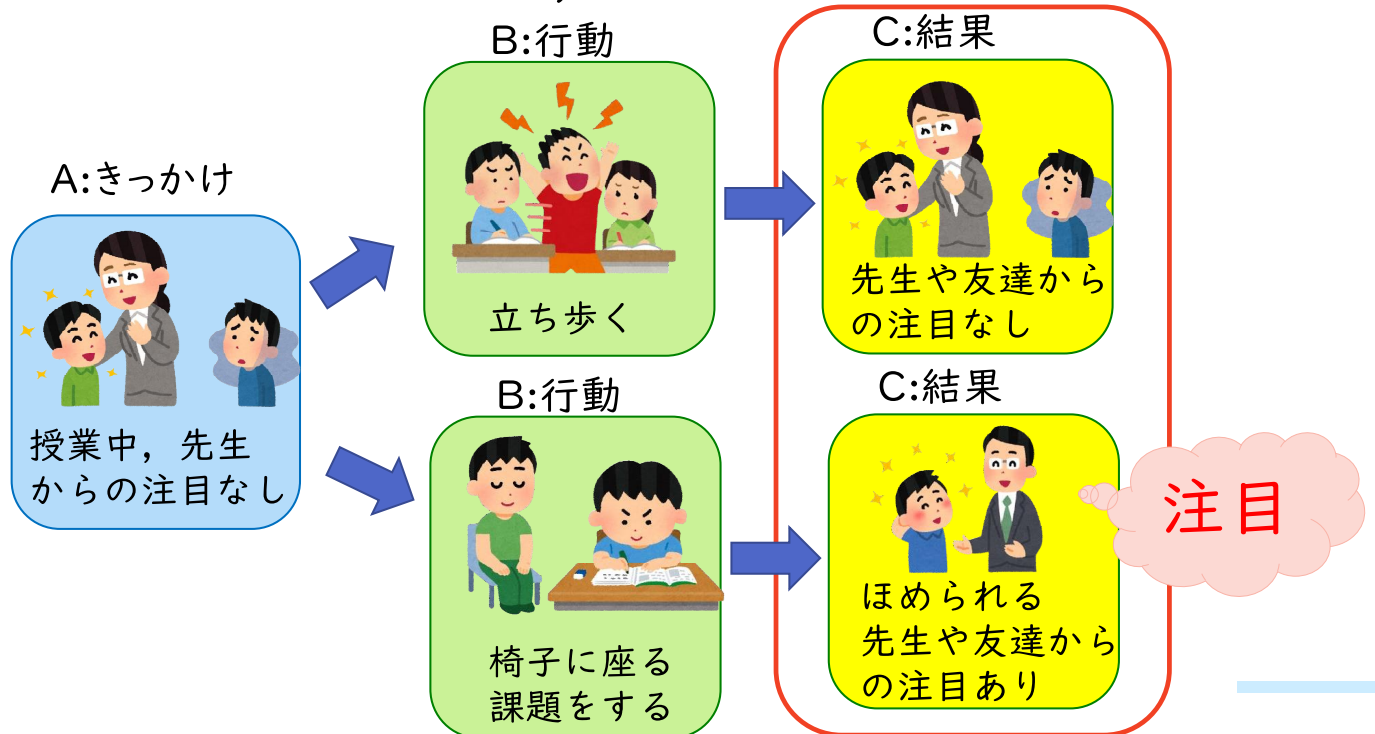
3) 望ましい行動を定義し、それぞれの理由に応じた方略を考える

- 「きっかけの工夫」「望ましい行動」「強化の手立て」の3つの方略を立てる。



3) 理由に応じた方略 ①「注目」

- 困った行動より代替行動や望ましい行動を強化する。困った行動は、なるべく強化しない



基準は低めに、できているところに注目



ほめようと思っても、きちんとしてくれないのでほめられません。どうしたらいいですか？

- ほめるところがないのは、要求が高すぎるから。
- 大切なのは、「最初から完璧を求めない」こと。
- 「今、できているところ」や「いつもよりも少しだけマシなところ」も見つけたらほめる。

事例1：授業中の立ち歩き

(40分座り続けることは難しいけれど)

→開始5分後、目を合わせ



きっかけの工夫のポイント

- ・ 困った行動が起こらなくてもすむための工夫
- ・ 望ましい行動が起こるための工夫

環境調整

- ・ ルール決め
- ・ 机の配置
- ・ カーテンを閉める
- ・ パーテーション
- ・ 課題の難易度
- ・ 課題の量・時間
- ・ 課題の順番
- ・ 提示の仕方
- ・ 集団の人数, 時間

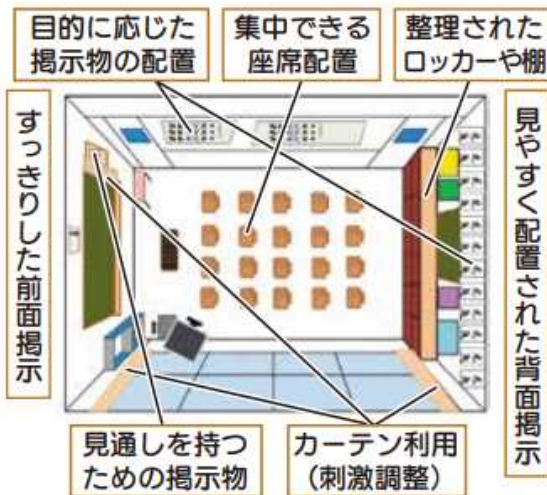
視覚支援

- ・ 立つ場所をマーク
- ・ 文字で示す
- ・ スケジュール
- ・ ルールや手順を文字やイラストで示す
- ・ 文節を明確にする
- ・ 関係図で示す

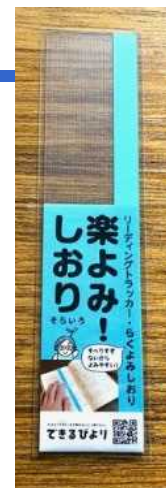
簡潔な指示

- ・ 注意を引く
- ・ 簡潔・具体的な指示
- ・ 選択肢の提示
- ・ 自己選択できる機会の設定
- ・ お助けヒント
(声かけ, 指さし, 見本, 身体ガイダンス)

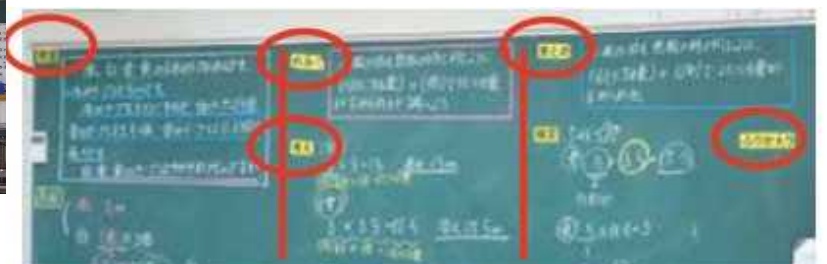
環境調整



視覚支援



楽よみしおり
<https://www.office-sunny.shop/product-list/52>

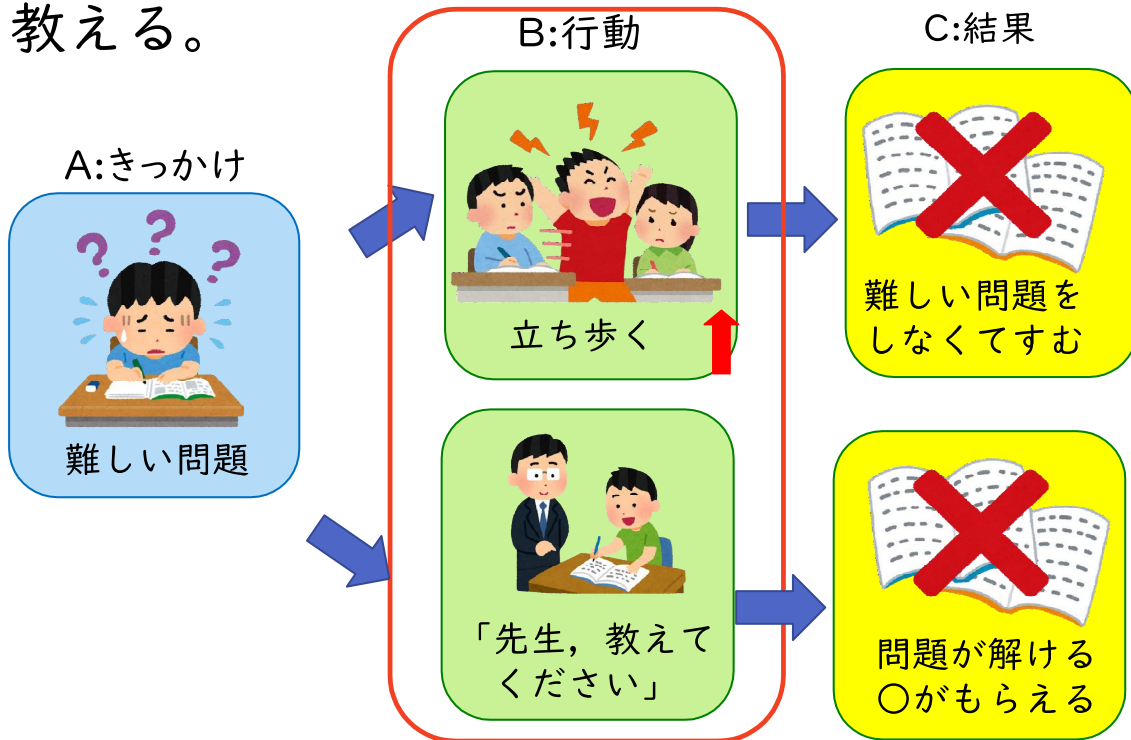


B 見やすいように、整理された板書



3) 理由に応じた方略 ②「逃避」＜その2＞

- 問題となる行動と同じ機能を持つ望ましい行動を教える。

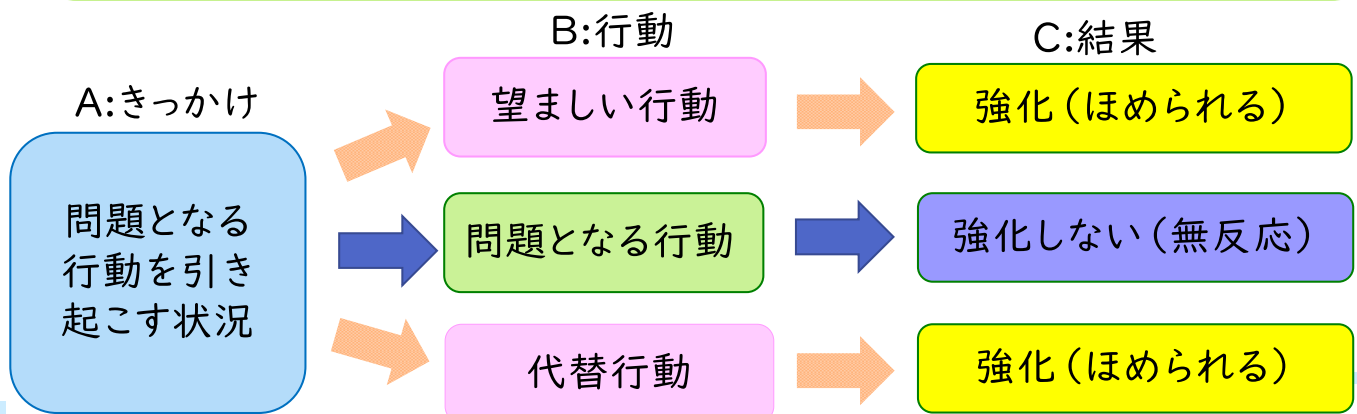


④望ましい行動を教える



「機能」から代替行動を考える

- 困った行動と置き換わる適切な行動を教える。
→「子どもたちが伝えなかったメッセージ」
- 長期的な目標となる「望ましい行動」も考える。
→代替行動は、「困っている状況」を切り抜けるための一時しのぎのスキル
→新たに学べる状況をつくり出す。



望ましい行動を教えるポイント

コミュニケーションスキルを教える

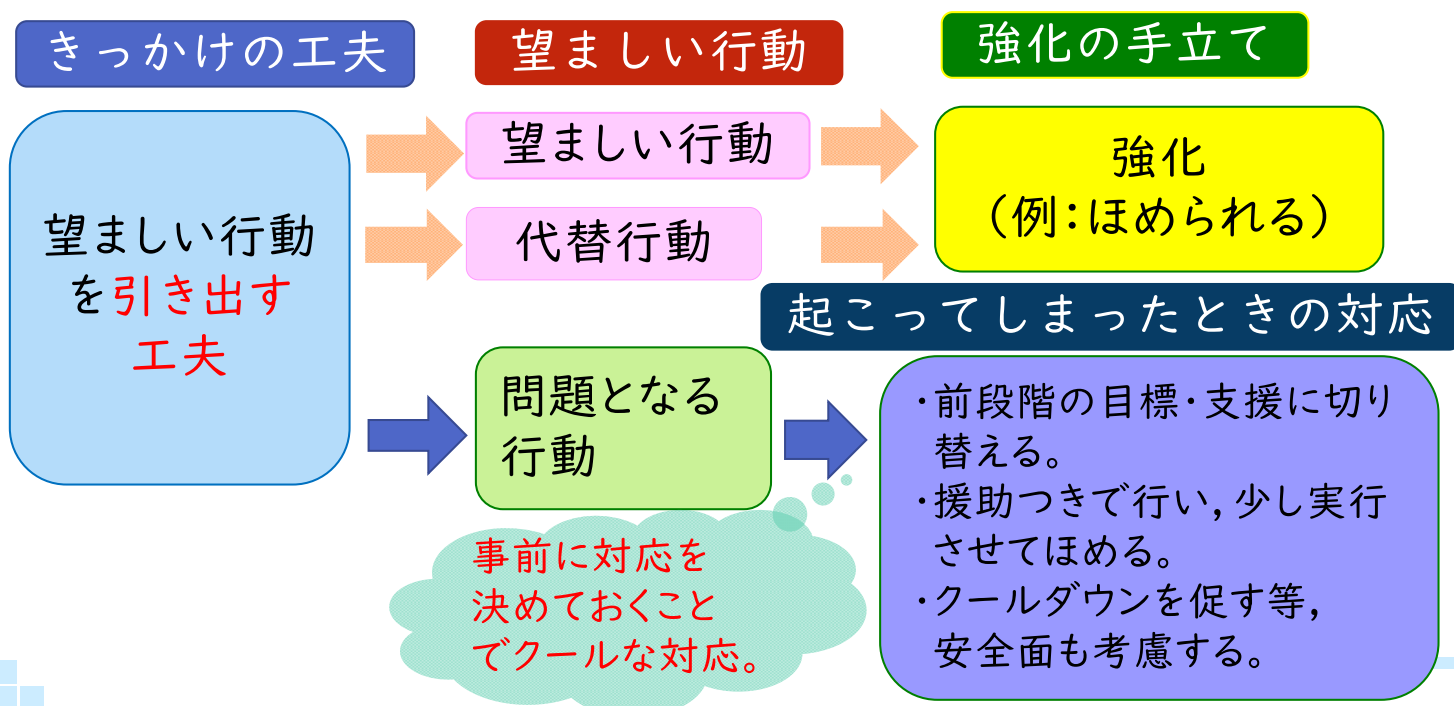
- ・「要求」「注目」「逃避」の機能は、「コミュニケーション」の意味。
- ・コミュニケーションスキルの実態を把握しておくことが必要。
- ・スキル不足を補うためのツールの使用を検討する。
- ・適切なコミュニケーションスキルを使用したときは、必ず強化する。

指示に従う行動を教える

- ・困った行動を禁止するのではなく、少し頑張ればできそうな行動を目標に設定する → スモールステップ
- ・A:きっかけにおいて、ルールを明確化・視覚化する。
- ・目標を達成しやすくするため、ルール(約束)を守る時間を決める。
- ・ルールを守れたかどうかを確認し、強化する。

4) 起こってしまったときの対応を考える

- ・望ましい行動を教えて、きっかけの工夫をしても上手くいかないときもあります。



【支援例】 事例Ⅰ：授業中の立ち歩き

Q：立ち歩かずに漢字練習するには，どのように指導したらいいでしょうか？

A:きっかけ

B:行動

C:結果

メリット

- ・実態に応じた漢字選定
→本時に書く漢字を自己選択する
- ・書字数の削減
- ・提示数を少なく
- ・大きなマス目を使用
- ・分かりやすい見本の位置
- ・実態に応じたヒント
→継次処理，同時処理
- ・ルールの提示
→視覚化，明確化
(座って漢字を2行書く。1回以上立たなければシール等)
- ・自立活動時，手指の巧緻性を高める作業をする

座って漢字を2行書く

少し頑張れば
できそうな行動を目標に設定する
→**スモールステップ**

- ・少しでも（例：2文字）書けたらほめる
- ・「座って書けたね」「この字のはね，上手だね」等具体的にほめる
- ・ルールが守れたら，花丸シールを渡す
(5個貯めたら，先生とゲームの話ができる10分間できる) →トークン

起こってしまった時の対応

- ・目も合わさず，椅子に誘導
- ・ルールを指さす
- ・書き始めたら，すかさず褒める

4. 記録を取ろう

～記録用紙をダウンロードしよう～

鳴門教育大学 発達臨床センター
Clinical research center for human development

センター概要 センター教員一覧 お知らせ 研究成果

お知らせ

鳴門教育大学発達臨床センター

<https://www.naruto-u.ac.jp/center/crchd/news/>

個人に対するPBSの記録 (3層支援)に向いています。 (年 組) 氏名 ()

目標は，支援の度合い(例：一人で，声かけで等)も含め，具体的に記入する。

目標：「おはよう（ございます）」と自分から1人以上に挨拶できる

得点 (点)

4	3	2	1	0
---	---	---	---	---

11/9 11/10 11/11

日付 (月/日)

グラフは印刷後手書きでもよい。

3日おき，1週間に1度など，実態に応じて記入。(手書きも可)

スモールステップで得点を設定。支援の度合い(一人で，声かけで等)で得点を設定するのよい。

児童生徒が「またやってみよう！」と思えるような褒め方を考えることが大切。本人と一緒に決めるのもGOOD!

達成基準

4点・・・自分から声を出して1人以上
2点・・・相手の挨拶にえしゃく

3点・・・相手の挨拶後できた
1点・・・先生のうながしてえしゃく

中止基準

1点以下が7回連続したら，手立てや目標の見直しを行う

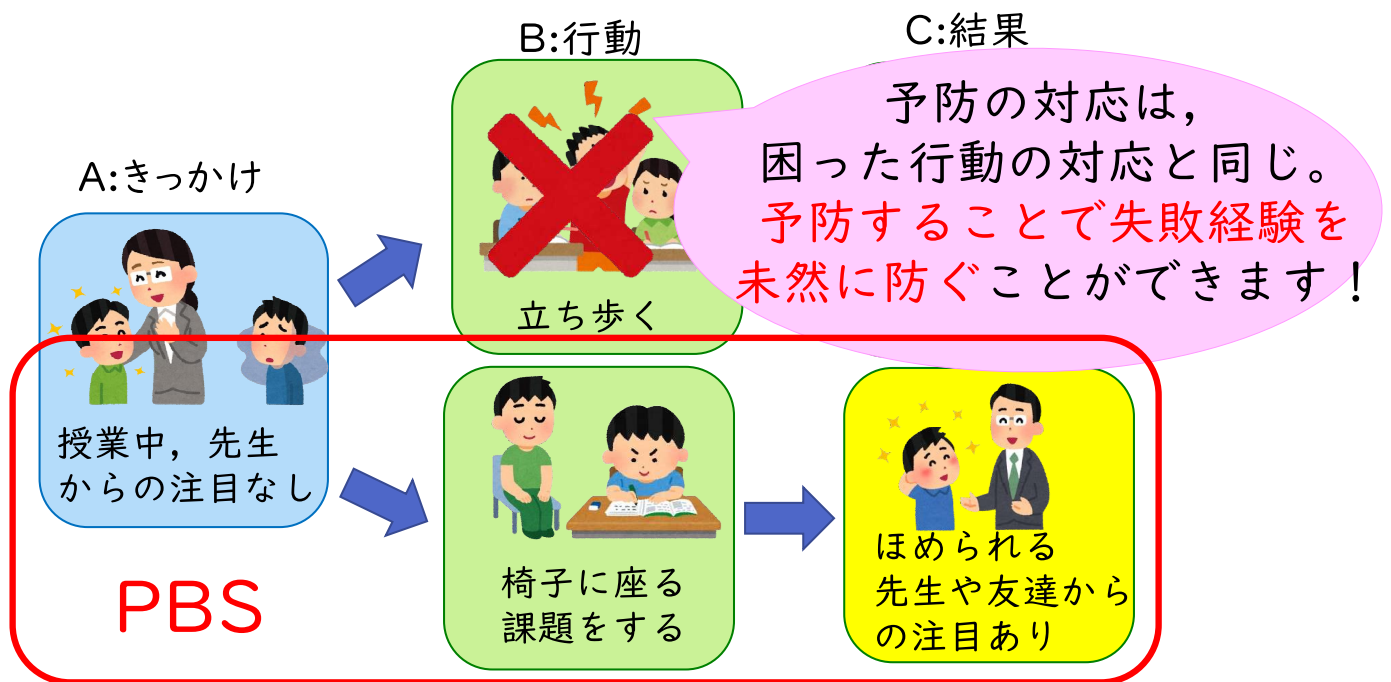
目標が達成したときの褒め方

例) あいさつ名人の賞状を渡す
宿題なし券を渡す
ことば褒める 等

中止基準を決めておくことで，すぐに評価→改善へとつながる。

上部に戻る

困った行動が起こる前に 予防的な対応をしよう



困った行動が起こってから取り組むのではなく
困った行動が起こる前に予防しましょう！

最後に・・・

- 困った行動以外の望ましい行動もたくさんしているはずですよ。それらの行動をみとめて、ほめてあげましょう。
- 「おこってからの対処」ではなく、まず「おこさないですむ」よう予防的対応を行いましょ。
- 困った行動への対応は、チームで取り組みましょ。
- 困った行動に代わる適切な行動を教えましょ。
- ルールや対応を決めたら、教師も必ず守りましょ。
- 少しずつ無理なく進めましょ。

「学び手は常に正しい」

子どもたちの行動から、
子どもたちの本当の声を聞いて
支援していきましょ！



参考文献

- 「家庭で無理なく対応できる 困った行動Q & A 自閉症の子どものためのABA基本プログラム4」
井上雅彦 (著)
- 「3ステップで行動問題を解決するハンドブック—小・中学校で役立つ応用行動分析学」
大久保賢一(著)
- 「保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック」
三田地真実 (著), 岡村章司 (著)

